学校番号	3018

令和２年度　　芸術　　科

教科	芸術	科目	書道I	単位数	（　２　）単位	年次	（　１　）年次
使用教科書	東京書籍「書道Ⅰ」						
副教材等	ペン習字教範						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・小学校、中学校の書写で学んだことを発展させ、書の歴史をふまえてさまざまな表現の違いを学ぼう。
・楷書、行書、草書、篆書、隷書、仮名などのさまざまな書体を体験し、筆を自由に使いこなして自分らしい美しい文字を書くことを目指そう。
・作品を書くことで表現する力を伸ばそう。
・さまざまな発表の場を通じて“表現”について考えよう。
・多様な作品に触れ、生涯にわたって書を鑑賞、愛好する心を育てよう。

２　学習の到達目標

文字を正しく整えて書く、小中学校の『書写』から発展し、高校書道は『芸術』に属している。書道の幅広い活動を通じてこれまで培ってきた書写能力を高めることはもちろん、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、感性を豊かにして書を愛好する心情を育てる。また、書の伝統と文化への理解を深める。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:書への 関心・意欲・態度	b:書表現の 構想と工夫	c:創造的な 書表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	正しく美しい字を書く意識を持つ。そして書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。	書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の中での芸術全般、また書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
評価方法	観察 副教材 作品集 展示作品	観察 作品集 展示作品	観察 副教材 作品集 展示作品	観察 レポート 作品集 展示作品

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間	書写と書芸術 漢字の書 (楷書) (硬筆)	・書写と芸術科書道 ・芸術の鑑賞について ・文房四宝 ・楷書について ・九成宮禮泉銘臨書 ・孔子廟堂碑臨書 ・雁塔聖教序臨書 ・自書告身臨書 ・硬筆	○		○		a:用具用材を大切に扱う。書写と書道の違いを理解して漢字の美しさについて関心を持ち、意欲的に表現鑑賞活動に取り組む。 b:書写からの基本を踏まえ、楷書の美を理解して表現を工夫している。 c:創造的な書表現をするために必要な代表的楷書の用筆法を身に付け、美しい筆使いができる。 d:芸術の意義を考える。楷書の古典を知り、その良さを味わう。硬筆の効用と良さを味わう。	観察 レポート 副教材 作品集
前期期末	漢字の書 (楷書) (行書) 刻字	・蘭亭序臨書 ・風信帖臨書 ・楷書行書による創作作品制作 ・作品を刻字	○		○	○	a:楷書や行書に関心を持ち、意欲的に用筆法を習得して作品に生かせるよう取り組む。 b:楷書や行書の美を理解して、作品の表現を工夫している。 c:作品制作にも生かせるような、効果的な楷書行書の用筆法を身に付けている。 d:教科書の参考作品や互いの作品など、様々な作品を鑑賞し、その美しさを味わう。	観察 作品集 展示作品
後期中間	漢字の書 (行書) (草書) (隷書) 仮名	・争座位文稿臨書 ・李嶠詩残巻臨書 ・伊都内親王願文臨書 ・真草千字文臨書 ・曹全碑臨書 ・仮名の線の基礎	○				a:行書や草書、隷書、仮名に関心を持ち、意欲的に用筆法を習得して作品に生かせるよう取り組む。 b:行書草書隷書仮名、それぞれが違った美しさを持ち用筆法も違うことを理解し、自分の作品に生かしている。 c:文字の成り立ちを理解したうえで、行草隷仮名の基礎的な表現の技能を身に付けている。 d:和様、仮名など初めて目にする美しさを理解し味わう。またその技法を習得する。	観察 作品集
後期期末	漢字の書 (篆書) (五体) 仮名 漢字仮名交じりの書	・泰山刻石臨書 ・五体を使って創作作品制作 ・変体仮名について ・高野切第三種臨書 ・現代詩を創作表現 ・色紙作品の制作 ・硬筆	○	○		○	a:漢字仮名の歴史を深く知り、漢字や仮名の美しさが現代に生かされていることを学んだうえで、創作過程から意欲的に作品に取り組む。 b:各書体の良さを感じ取り、作品の意図を明確にして表現を工夫している。 c:作品の意図を明確にするための表現技能を身に付け、構成を工夫し、紙面の大きさに応じて書くことができる。 d:互いの作品を鑑賞し、その良さを創造的に味わっている。	観察 副教材 作品集 展示作品

※　表中の観点について　　a:書への関心・意欲・態度　　b:書表現の構想と工夫
c:創造的な書表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。